

# ケロイド・肥厚性瘢痕の治療 (耳やフェイスライン)

## ケロイドや肥厚性瘢痕ってなに？

この2つはどちらも傷跡の一種です。赤く盛り上がってなかなか平らにならない傷跡のことをいいます。痛みや痒みを伴って徐々に大きくなるものをケロイド、治りの悪かった傷跡が盛り上がったものを肥厚性瘢痕と分類してきましたが、最近の研究では肥厚性瘢痕とケロイドは実は同じ病態、炎症の強弱の違いではないかと考えられています。

## どうしてできるの？

傷からできます。傷を治すための線維芽細胞の炎症が関係しており、体質的なもの、遺伝的なもの、そして怪我の部位もケロイドや肥厚性瘢痕の発生に大きく関係しています。

## できやすい場所は？

顔面では耳や耳前部、そして鼻や唇、フェイスラインができやすいです。

## 治療方法は？ ※赤字は自費治療となっております。

ケロイドや肥厚性瘢痕には様々な治療方法があり、以下の治療を組み合わせで行っていきます。基本的に治療法を増やしていけば治療の効果は高まります。

- 内服治療：お薬を飲んでいただきます。(リザベン、柴苓湯など)
- 外用薬：お薬を塗ったり貼ったりしていただきます。  
(**エンビロン**、エクラプスター、ステロイド軟膏、保湿剤)
- 圧迫治療：シリコンジェルシートやスポンジなどで傷跡を圧迫します。
- 注射治療：ステロイドやボトックスの注射を行います。  
(ケナコルト注射、**ボトックス注射**)
- レーザー治療：傷跡の状態に合わせたレーザーを照射します。  
(**ロングパルスNd:YAGレーザー**、**フラクショナルレーザー**、**POTENZA**など)
- 手術治療：形成外科的な手術を行います。
- 放射線治療：手術と組み合わせで行います。連携施設で行います。

## 治療期間は？

ケロイドや肥厚性瘢痕の治療の一つのゴールは「痛みや痒みのない白い平らな傷跡」にすることです。

そこまでにはテープや注射だけですと3年以上はかかることがあります。レーザーなどの治療を行っても1~2年はかかります。ゴールに向けて様々な治療を組み合わせながら1歩ずつ進んでいくようなイメージです。

## 治療の経過は？

通常、痛み痒みが良くなる→柔らかくなって平らになる→赤みがおさまってくる、という経過をたどります。悪くなる時は逆の順番です。



きずときずあとのクリニック

形成外科・美容外科

次回のご予約は  
**LINE**から簡単  
に行なえます!



## □耳垂、耳輪のケロイド

この部位は手術と放射線がよく用いられます。手術前にはエクラプasterや注射などである程度の炎症を抑えておきます（痛み痒みがなく、テカテカ感も治っている程度）。耳垂は楔状切除、耳輪は核出術が行われます。手術だけだと再発率は3割、放射線を併用すると1割程度まで再発率は改善すると報告されています。ただ術後も再発には注意が必要ですが、また固くなってきたらすぐにエクラプasterを始めるなどで対応は可能です。ケナコルトやエクラプasterは発生から半年以上たったケロイドに効果は少ないと報告されています。

## □フェイスラインのケロイド

ニキビから発生する、男性に多いケロイドです。治療はエクラプasterやケナコルトから開始します。半年から1年である程度炎症が落ち着いたところ（痛み痒みがなく、テカテカ感も治っている程度）で手術と放射線も行われます。ただ術後も再発には注意が必要ですが、また固くなってきたらすぐにエクラプasterを始めるなどで対応は可能です。レーザー治療や（ロングパルスNd:YAGレーザーやフラクショナルレーザー）やボトックスも行われます。これらの治療は数年に渡り、ニキビの治療も並行する必要があります。

## Q & A

Q：飲み薬は副作用がありますか？

A：リザベン®（トラニラスト）は妊娠中の方は服用できません。また人によっては膀胱炎症状（尿が近くなったり痛くなったりする）が出ることがあります。その様な症状が出た時は飲む回数を減らしたり、中断して医師に相談してください。

Q：ステロイド注射の合併症はありますか？

A：妊娠中の方には使用できません。また糖尿病、緑内障、白内障では控えた方が良いと言われております。またケロイド周りの脂肪萎縮を起こすことがあります。女性では生理不順が起きたり、高齢者では骨密度の低下を起こすこともあります。

Q：レーザー治療はいつから行えますか？

A：ケロイドに効果があるロングパルスNd:YAGレーザーは、怪我が治ってから最低でも3ヶ月以降から行うことができます。自費治療となりますが、早く治療を進めたいという方にはおすすめです。通院期間は半年以上はかかるので医師と相談の上で進めていきましょう。

Q：手術は可能ですか？

A：ケロイドや肥厚性瘢痕は傷跡が盛り上がってくる状態です。手術してもまたその傷跡がケロイドになることがあります。手術を行うかどうかは医師と相談してください。

Q：放射線が怖いのですが？

A：ケロイドを切除した後の傷跡に電子線（放射線の一種で浅いところのみに効果のある放射線）を当てることでケロイドの再発を下げるということがわかっております。照射する線量は安全な範囲で決まっており、二次発癌の可能性は非常にまれです。妊娠中の方や小児には行いません。



きずときずあとのクリニック

形成外科・美容外科

次回のご予約は  
LINEから簡単に  
行なえます！

